

まちなにぎわいづくり一括助成事業 事業評価シート

作成年月日	平成22年11月1日	調書作成者	復興支援課 宮本
事業概要	採択年度	平成18年度	
	プロジェクト名	「B面の神戸・新開地」新店舗創出・リバイバルプロジェクト	
	補助額	2,013,000円	
	事業実施団体	新開地周辺地区まちづくり協議会	
	事業期間	平成19年4月12日～平成21年3月31日	
事業開始時の事業目的	<p>再開発などの都市整備、チャレンジショップなどの空き店舗対策、集客のためのイベントを有効な枠組みと結びつけるコーディネートを中心にやってきた。「B面の神戸」を創るため、交流拠点整備のための提案事業、新開地・新世紀PR事業と活動、総合的な店舗集積・プロデュース事業更に強化して取り組み、まちの魅力的な要素の底上げを図ることでにぎわいづくりを目指す。そのため、この地区内で実施される「湊川公園改修事業」が集客・交流の起爆剤になるようソフトの仕組みづくりを行い、効果を上げる。</p>		
事業実施状況	当初計画事業		当初計画どおり実施した事業
	湊川公園マネジメント計画づくり～調査・提案事業～	(左の当初計画事業の番号を記載)	
	総合空き店舗情報サイトのシステム構築と運営		
	店舗独立開業応援事業「スタンドアップ・プロジェクト」の拡大実施	当初計画から変更して行った事業とその変更理由	
	実力ある店舗誘致活動＋支援	(左の当初計画事業の番号を記載)	
		(変更理由)	
		実施しなかった事業とその理由	
	(左の当初計画事業の番号を記載)		
	、		
	(理由)		
	は、人的リソースの問題で実施できなかった。及びは、実験事業として類似事業を実施したところ、裁判沙汰になるトラブルとなったため、内部の合意形成を図れなかったことから実施を断念。		

	当初計画していなかったが実施した事業とその理由・目的等
	(実施理由・目的)

実施団体による自己評価

当初計画で設定した評価指標とその成果

指標の達成状況	当初計画で設定した評価指標とその成果			
	定量的評価指標	従前数値	事業終了時の数値	今後の達成の見込み・時期等
指標1	店舗の入れ替わりの状況	出店6 退店6 リニューアル1	出店12 退店8 リニューアル3	
指標2	新開地音楽祭の集客数	約7万人	約8万人(見込み)	
指標3				
各指標に対する評価	湊川公園の改修にかかる提案の内容が反映されることにより、新開地音楽祭の来場者数が増えると見込まれることは評価できる。			
指標の達成状況	定性的評価指標	従前	事業終了時	今後の達成見込み・時期等
	指標1	地区のPR事業の実施による地区への関心の高まり		店舗の入れ替わりが増えてきている。
指標2				
指標3				
各指標に対する評価	独自のPR事業の実施により、「新開地地区」への関心が高まっていることは評価でき、引き続き、この取り組みが継続されることを期待する。			

当初計画で設定されていなかったが達成度を評価できる指標とその成果		
	評価指標	成果
指標1		
指標2		
指標3		
事業実施によって事業終了後に残った成果		
成果1	湊川公園改修に関連して、調査・提案を行った内容が工事にも反映され、設計仕様変更による利便性が向上した。	
成果2		
成果3		
成果を今後地域で継続させていくための方策		
<p>まちの個性をPR、それを環境整備でさらに視覚化・底上げ、相乗効果を活かして魅力店舗・コンテンツの誘致や開発という流れでまちづくりに取り組む。</p>		
今後の課題		
<p>魅力店舗誘致事業が予定どおり実施できなかったように、周辺の状況や実施環境に左右される部分があり、地区内の商業ポテンシャルが落ちないうちに、計画された事業を実施に移す環境づくりが必要である。</p>		
その対処方針		
<p>計画された事業プログラムを着実に『実施できるよう、合意形成や状況づくりコーディネートを行う。また、地元で主体的に行うマーケティング活動に力を入れ、店舗誘致事業を開始させ、安定的な商業地のにぎわい再生につなげる。</p>		
事業実施後の地域への波及効果、次なる展開		
<p>「湊川公園改修事業」や「聚楽第横丁(特徴的な路地裏商業エリア)再生計画を実施していく。</p>		
地域のまちのにぎわいはどうなったか		
地元区の評価(所見)		
<p>新開地地区では、地元まちづくり協議会を主体に、新開地音楽祭などの各種イベントをはじめ、新開地ファンを増やすための魅力づくりを展開し、着実に知名度や集客力をアップしてきている。 また、隣接する湊川公園の改修整備や利活用を含めたマネジメントを官民協働により行ってきており、大きな成果として表れてきている。 今後、湊川公園を拠点に、周辺空き店舗活用などを含め、より発展した新たな魅力づくりが期待できる。</p>		